

いしづち

愛媛労災病院広報誌第13巻第3号

（通巻第69号）

2014年7月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



負荷心筋シンチと冠インターベンション …… 2

薬剤部長着任のあいさつ …… 3

ふれあい看護週間行事 …… 3

新居浜市に来て …… 4

川東地区
地域医療連携意見交換会を終えて …… 4

負荷心筋シンチと冠インターベンション

循環器内科部長 佐藤 晃

以前ご報告したように、平成24年4月から心筋シンチに使用する装置が新しくなりました。現在まで当院での心筋シンチ全体の検査件数は着実に伸びて来ており、平成24年度は534例で平成25年度は584例行っています。現在特に力を入れているのは、負荷心筋シンチで、平成24年度は薬物負荷380例、運動負荷98例、平成25年度は薬物負荷494例、運動負荷54例と薬物負荷の件数が大幅に増加しております。薬物負荷は運動が十分できない整形外科的疾患や高齢の患者さんにも施行できて有用ですが、気管支喘息や高度房室ブロック、洞機能不全症候群、低血圧等実施できない場合もあります。

負荷心筋シンチの有用性は図1に示した通りですが、特に冠インターベンション(カテーテル治療)の適応を決定する上で負荷心筋シンチは有用です。心筋虚血の範囲の定量化をすることで、冠インターベンション治療が有用かどうか判断する事ができます。心筋を17のセグメントに分け、それぞれの血流の程度を正常から重症まで0~4で評価し合計してスコアを算出します。負荷時の心筋虚血の程度(SSS)が重症ほど予後が悪く(図2)、また負荷によって生じる心筋虚血の程度(SDS=SSS-SRS:SRSは安静時の虚血の程度)が中等症以上(SDS≥8)であれば、冠インターベンションを行う方が薬物治療より予後が良い(図3)というデータがあります。また薬物や冠インターベンションによる治療を行って

負荷で生じる虚血(SDS)を5%以上減らすと予後が良くなるとのデータもあります(図4)。

当科では狭心症が疑われる患者さんに対して、外来では冠動脈造影CTによる形態的評価や負荷心筋シンチによる機能的評価を行っています。また冠動脈造影でボーダーラインの狭窄を認めた場合には、血管内超音波による形態的評価に加えて狭窄前後の灌流圧の圧較差(FFR: Fractional flow reserve)による機能的評価を行ってカテーテル治療の必要性の有無を判断しています。その中でも負荷心筋シンチは造影剤を使用せずに心筋虚血の有無や部位評価から虚血性心疾患の診断、心筋虚血の定量評価から冠インターベンション治療の適応の決定、また治療後の再狭窄の可能性の有無の評価等、幅広く役立つ重要な診断ツールとなっています。

薬物負荷心筋シンチの症例は83歳の女性で、歩行時の胸部不快感のために近医よりご紹介頂きました。冠動脈造影で左前下行枝に狭窄を認め、薬物負荷心筋シンチではSDS11(14.2%)であったため、冠インターベンションを行いました。

当科では前述のように必要な検査を組み合わせ、各患者さんにとって最適な治療を行うように心がけています。今後とも狭心症を疑う胸痛患者さんや術前に冠動脈疾患のスクリーニングが必要な患者さんをはじめ、循環器疾患患者さんのご紹介を宜しくお願いします。

負荷心筋シンチの有用性

- 負荷心電図より心筋虚血の有無が鋭敏にわかる。
- 心筋虚血の局所診断が容易に行える。
- 虚血心筋量の定量評価が簡便に行える。
- 冠インターベンション治療のメリットの有無の判断をするために有用である。
- 冠インターベンション治療後の虚血の改善の評価により、予後改善に効果があったかどうかの判定をする事ができる。
- 薬物治療の効果判定にも利用する事ができる。

図1

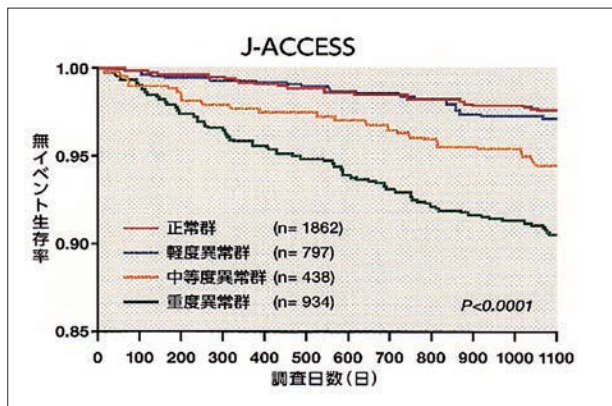


図2

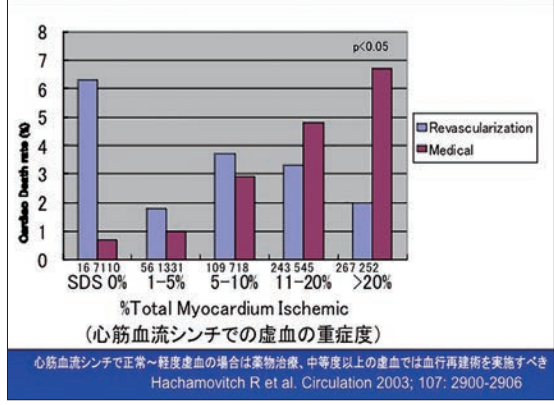


図3

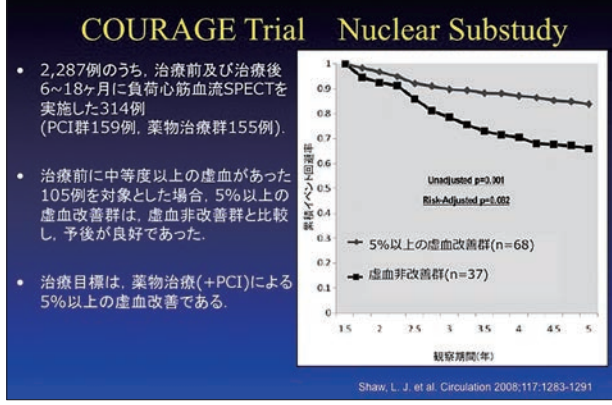


図4

薬剤部長着任のあいさつ

薬剤部長 川 崎 英 二

この四月から転任してまいりました薬剤部長の川崎です。

最近見たWEB記事の中で外国人から見た「日本人のイケてる10のこと」というのがありました。

いくつか上げますと、自動販売機、食べ物、タクシー、コンビニ、時間厳守などなどです。

外国に旅行すると日本人である自分が逆に実感するものばかりです。その中の一つに「室内では靴を脱ぐ習慣」があります。「家に入るときは玄関で靴を脱ぎ、学校では上履きを履く。

場所によっては、歯科医院や病院でもスリッパに履き替える。外を歩き回って、犬の糞を踏んだかもしれない靴のままベッドやソファに足を上げるのは、どう考えても衛生的ではないからこの習慣はイケてる！」というのです。

普段当たり前に行っていることですが、外から見ると意外なことも多いということです。

卑近な例ですが、薬剤部内でも錠剤を半分に分ける時に、アルコールで消毒した手で直接触れるか、

ピンセットや手袋をつけるかという議論がありました。

なかなかこのような細かいことになるとエビデンスもなく施設によってまちまちではありますが、院内感染防御という視点から真面目に取り組んでいきたいと考えています。

薬剤部員は9名で調剤・服薬指導等を行っていません。6月には医薬品のインターネット販売許可の関係もあり、改正薬剤師法が施行されます。

薬剤師は医薬品の情報提供だけではなく“指導”も条文に明記され、ますます責任が重くなってきました。微力ではありますが、少しでも皆様にお役に立てるよう頑張りたいと思います。



ふれあい看護週間行事

看護部

5月12日は看護の日

「看護の日」は、国民に人に対する世話や看護についての理解を深めてもらうことを目的に近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで制定されました。「看護の心をみんなの心」をメインテーマに5/11～5/17の看護週間に全国で様々なイベントが開催されました。当院では5/9～5/19まで看護部の部署紹介をはじめ、認定看護師の活動、院内チーム活動や薬剤部・放射線部・リハビリ部・栄養管理部・検査部・臨床工学部の活

動を紹介するポスターを展示し、患者さまや地域の皆様に各職種の活動を知っていただくことができました。また、5/13は玄関ロビーで看護・介護・薬剤などの相談イベントを開催し、来院中の66名の方にご参加いただきました。病棟では、洗髪や足浴・血圧測定などの看護体験を行い、どのイベントも好評のうちに開催することができました。



新居浜市に来て

整形外科医師 松木 佑太



初めまして、4月より愛媛労災病院整形外科に赴任しました、松木佑太と申します。まつぎではなく、まつきと言います。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。山口県下関出身で、長崎大学医学部卒業後は、山口大学医学部附属病院整形外科に入局し、現在医師4年目です。すなわち、愛媛県、新居浜市は初めての地です。

現在新居浜に来て2ヵ月が経過しましたが、様々なギャップにただただ驚くばかりでした。1つは言葉遣いです。長崎大学に入学した時も九州弁、長崎弁をなかなか理解できず、とても苦労しましたが、新居浜弁はそれ以上でした。四国弁で、早口で捲し立てるような喋り方に、怒られているのではないかと恐縮することが多々ありました。しかし、徐々に慣れていくうちに、とても愛着のある、親しみやすい言葉なんだと感じました。そして明るい性格、思っていることを正直に言うはっきりとした性格、これが市民性なんだと感じました。看護師もグイグイ来るため、割と早く病棟にも慣れ、自分を出すことができました。

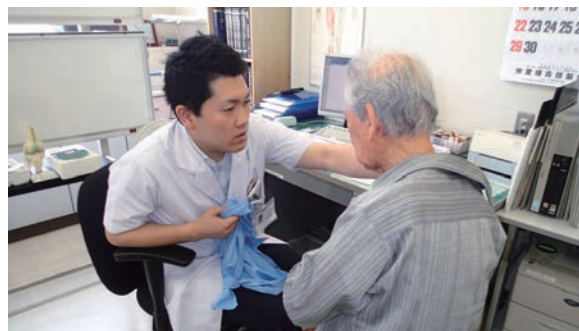
もう1つは、道路の狭さです。生まれ故郷の下関

は、安倍首相の地元でもあり、道路は比較的広く綺麗に整備されています。しかし、新居浜は大通りから脇道に入ると途端に狭くなります。いつか、車をぶつける日が近いような気がします。しかし、慣れますと色々な抜け道があり、とても面白い街だなと感じました。

このように様々なギャップ、発見に日々驚いていますが、新居浜に来て愛媛労災病院で働かせて頂けて、本当に良かったと思います。手の外科、脊椎外科、関節外科、外傷外科のエキスパートがおり、それぞれの先生方が優しくご指導して下さい、どんどん症例を経験することができる、若手にとってこれ程魅力的で、自分の成長が期待できる病院はないと思います。新居浜の地域医療に貢献し、1人でも多くの人の痛みや悩みと向き合えるように、日々精進して参りたいと思います。

どんな些細なことでも構いませんので、どんどんお話しください。

宜しくお願い申し上げます。



川東地区 地域医療連携意見交換会を終えて



『地域医療連携意見交換会』とは、地域の居宅支援事業所や施設の代表の方にお集まりいただき、地域の方々と病院がお互いの率直な意見を交換し合うという会です。今回は6月3日に9施設から15名の方が参加してくださいました。病院からは、院長、

地域医療連携室看護師 鈴木 美鈴

看護部長、副部長、看護師長、地域医療連携室メンバー、MSW、そして、4月に着任した医事課長の14名が参加し、1時間という短い時間でしたが、活発な意見交換ができました。レスパイト入院に関する質問や、ご家族からの病院や職員に対する貴重な生の声を施設の方を通して聴くことができ、有意義な時間となりました。

今後も、より一層活発な意見交換が出来るように、この会を継続していきますので多くの施設の方々の参加をお待ちしています。継続することにより地域の医療の活性化に繋がっていかれると思います。

※レスパイト入院については別紙参照ください

広報誌編集メンバー 委員長：池田外科部長 委員：木戸副院長、都志見医局長、河村看護副部長、日野看護師長、土肥看護師長補佐、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、大西管理栄養士、山下総務課長、稲富庶務係長、曾我部連携室員、竹熊庶務係員